

令和3年度 上田市立城下小学校 学校自己評価シート

○ 評価基準 A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった

学校教育目標		めざす子どもの姿（中期的目標）	
まなび きたえ		<ul style="list-style-type: none"> ・自ら求めて学び合う子ども ・明るくたくましい子ども ・友や地域と温かく関わる子ども 	
ともにのびる子	今年度の重点目標	「関わる力の育成」人、もの、ことに自分から関わる「+1」の力の育成。活動に対して自分で考えて工夫して動く	
一人一人が輝く城下小学校	1	「城下小学び合い 対話的個人追究」の推進による「主体的・対話的で深い学び」への授業改善	
	2	活動に対して、自ら考え、自ら動き、自ら表現できる「+1」の活動ができるたくましさの育成	
	3	地域の人々・自然・歴史・文化等から学ぶ「探究的」な教科学習や生活科・総合的な学習の実施	

総合評価				
<ul style="list-style-type: none"> ・疑問に思うことを友だちと話し合い解決しようとする姿が増えてきた。 ・友と温かく関わる子どもの育成について進めることができた。自ら求めて学ぶ姿を育てることを伸ばしていきたい。 ・総合的な学習の時間を通して、地域とかかわりながら探究的な活動が進んでいる。 				
A	B	C	D	成果と課題
○	◎			<ul style="list-style-type: none"> ・対話的個人追究としてのグループ学習が定着してきた。その中でいかに効果的なグループ学習を進めるか、PCをどのように活用するかが課題である。 ・グループ学習、ペア学習を積極的に授業に取り入れた。試みる姿勢が学校全体にあった。 ・レクや協力する活動を行い、子ども同士の関わり合いを計画的に進めることができた。
○	◎			<ul style="list-style-type: none"> ・「+1」の合言葉はとても良い。掃除や家庭学習等で「+1」という言葉が子どもたちから出てくるようになった。 ・自信がないと「自ら」という、考え、動き、表現が難しいと実感している。日頃から、自信がもてるような言葉がけをしていく必要がある。 ・少しずつ自分を振り返り、行動しようとする姿が見られた。 ・低学年なりに考え取り組む姿があった。 ・「+1」の取り組みがなかなかできない児童への支援を工夫していきたい。
		◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと調べができた。人とのかかわりがコロナのこともあり思うように進まない部分があった。 ・今年は地域探検など実施することができ、実際の様子から学ぶことができた。 ・総合的な学習の時間など進めているが、探究的な学習になるように課題をより明確にしていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点
学校 教	教育課程・学習指導	心の通じ合いを重視した指導の推進	協力して活動する場や互いの良さを認め合える場を設定しながら行事、学級経営、学習指導を進めることができたか。
		授業のユニバーサルデザイン化	どの子にもわかる・できる授業づくり、確かな学力が身につについていく授業づくりができたか。
		学び合いを大事にし、考えを交流する場の設定	国語の読解力、算数の思考力の向上を目指し追究の場でわからないことを聞き合いお互いの考えを伝え合う学習活動を設定しているか。

A	B	C	D	成果と課題
○	◎			<ul style="list-style-type: none"> ・意識して、レクや協力する活動をしたことで、子ども同士の関わりや協力する場面ももてた。 ・エンカウンター等の視点から、子どもたちが関わり合う場をつくることができた。
	◎	○		<ul style="list-style-type: none"> ・教科の資質能力の向上につながる支援を考え取り組んだ。 ・わかる授業を目指し取り組んでいるが、探究的な授業だけでなく、基礎基本の定着のための教師主導の授業もあり、内容により重点を置く授業のバランスを考えたい。 ・今現在の取り組みをUDの視点で振り返る活動を続けていく。
○	◎			<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの考えを伝え合う学習、思いや考えを交流する場をつくることができた。 ・「学び合い」という言葉が示すように、お互いを高め合える場を大

育			
	家庭学習の充実	家庭学習の手引きを活用し、日頃の学習指導と連携させて家庭学習の習慣化がはかれたか。	
	明るい挨拶や返事の励行	進んで行く挨拶や気持ちよい返事を繰り返し指導し、児童会を中心に実践することで、子ども達に広がっていったか。	
	生徒指導	生活規範意識の育成(基本的な生活のルールの確立)	集団生活のきまりや約束に関する日常的な指導を進めたか。(遊びの約束事の徹底、安全な廊下歩行、授業を受けるルールの指導、無言清掃の取り組みに向けた指導等)規則正しい生活習慣が身につけてきたか。
	いじめ・不登校を未然に防ぐ取り組み(温かな人間関係)	自他の良さを認める場の設定や日常的な人権同和教育、自己有用感を高める教育活動を行うことができたか。子ども達の様子に目を配り、友達関係や実態をつかみきめ細やかな保護者との連絡を心がけることができたか。	
学 校 運 営	地域との連携	学社融合 地域の方々との交流	地域の方々と連携して、地域のものや人と関わり探究的な活動や交流ができたか。
		保護者との連携	参観、行事、懇談、環境整備等、保護者の方々の理解や協力を得ながら教育活動を展開しているか。
		学校からの情報発信	学校、学年、学級だより、学校ホームページを通して情報をタイムリーに発信できたか。
	研修	授業づくり研修	一人一公開授業を通して、自らの課題に向けて授業改善を進められたか。

				切にしてきた。 ・発表で終わってしまうことも多く、本当の意味での聞き合う学習を更に目指していきたい。
	◎	○		・自主学習に取り組んでいるが、習慣化は子どもによって差がある。 ・家庭での学習が習慣づけられるように宿題を工夫している。
	◎	○		・まだ、個人差はあるが、進んであいさつする児童が増えた。 ・もう少し、自分から挨拶できる子が増えてくれたらと思う。 ・児童会など子どもたちの活動から、変化があるように感じる。
	◎	○		・安全な廊下歩行が十分でないところに、児童会として更に活動の工夫ができないか、児童とアイデアを考えていく。 ・一つ一ついいに分かりやすく、日々の生活の中で意識して取り組んだ。 ・小さな音量の音楽が聞こえるぐらい無言で清掃に取り組むなど、昨年度の姿より向上していると感じる。 ・指導してもなかなか子どもの心にしみこんでいかない。自分の事として考えることができるようにしたい。
	○	◎		・子ども同士の良さを伝え合う場をつくったり、一人一人と担任が話す時間をつくっている。 ・相談室のていねいな対応により、長期欠席を未然に防ぎ、適応できるようになってきている。
		◎	○	・コロナ禍ということもあり、例年よりも連携できる活動が少なかった。 ・直接的な交流は少なかったが、様々な方法で交流ができるように工夫している。
	○	◎		・保護者の方の願いを大切にしながら、なるべく行事を実施できるように努力している。 ・コロナ禍の中でも可能な限り、参観してもらえる機会をつくってよかった。 ・クラス、学年の活動にご理解をいただき、協力していただいている。
		◎	○	・お便りやホームページだけでなく、個別の事柄については、連絡帳や電話を活用している。
	○	◎		・ク롬ブックの活用を思考場面、交流場面などで、少しずつ使えるようになってきた。 ・対話的個人追究に焦点をあてた授業公開を通して研修が進められている。先生方の理解力により研修も深められている。 ・他の先生方の授業を見たり、一緒に教材研究する中で、教材との向き合い方や、授業中の声かけや支援について、学ぶことができた。